

業界の声

情報連絡員

山梨県製麺 協同組合

事務局長

篠原憲造氏



業界の状況はいかがですか？

他の業種と同様に、事業主の高齢化、スーパー等への大手関連業者の参入等で販売不振が続いています。後継者難のため、廃業、転業等が続出し、協同組合の組合員も設立時の93社から44社へと半数以下へと減少しています。

組合としてどのような事業を行っていますか？

設立時より、組合員の取り扱う原材料、機器類の共同購入並びに斡旋を主たる事業として行なっています。その他にも組合員の生命保険共済制度、厚生年金基金への加入など、福利厚生事業等を積極的に行ってきました。また、組合として開発を行った新製品（おざら等）が順調に販売できるようになるなど、様々な活動を行ってきました。

しかし、近年では事業活動が停滞気味になっており、何らかの対策を打ち出すことを現在検討しているところです。

組合として取り組んでいくべきことはありますか？

近年の社会情勢の急激な変化により、業界全体の景況を正確に知ることが非常に困難になっており、具体的な打開策を打ち出すことが難しくなっています。

しかし、容器リサイクル法、地域団体商標制度等の様々な問題が提起されている中、時代に即した活動が重要性を帯びてくるのではないかと

考えています。

業界活性化のための

組合の役割は？

組合の経営の安定、福祉の増進等の事業を推進していきたいと考えています。しかし、急激な社会情勢の変化などに組合員自体が対応しきれない中で、組合が組合員のメリットを考えて活動するのは非常に難しくなっています。

趣味は？

昔は本を読むことが趣味でしたが、最近では無趣味が趣味ですね。

